



149年目を迎えて 創立記念日：2月5日(土) 全校集会(オンライン)2月4日実施

本年度の創立記念日で、本校は149周年となり、いよいよ次年度は150周年を迎えます。全校集会で、本校の歴史・伝統のすばらしさを再確認し、受け継いでいくことの大切さや誇りについて話しました。現在、150周年記念事業実行委員会による準備も始まっております。節目の時期に、これまで諸先輩方が築き上げてきた歴史と伝統に目を向けるよい機会となると思います。

【校長の話⑧】 ※HP「福島第一小学校：福島市立小・中・特別支援学校ポータルサイト」掲載

明日2月5日は、福島第一小学校が生まれてから、149回目の誕生日です。今日の給食は、「創立記念日献立」で、お祝いの意味が込められたおいしいお饅頭も出ました。

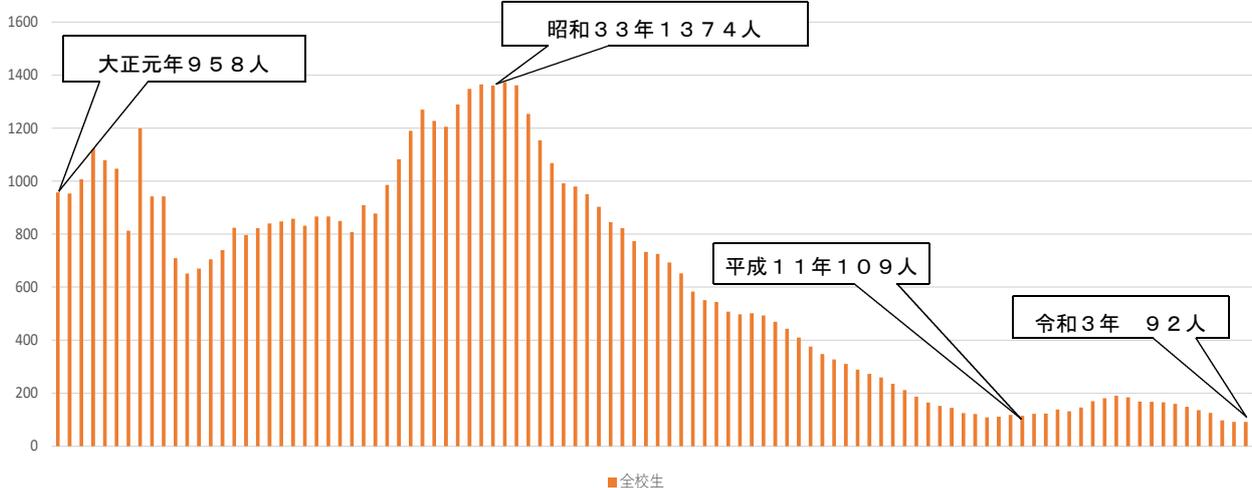
さて、福島第一小学校は、福島県にある小学校の中で一番早く誕生した歴史ある学校で、明治6年2月5日に「福島小学校」としてスタートしました。全国的に見ても大きな学校でした。

では、全校生はどのくらいいたのでしょうか。今年の全校生は92名です。校長先生が調べてみたら、一番多かったのは、昭和33年度(今から63年前：皆さんのおじいちゃんかそのお父さんのひいおじいちゃんが小学生のころ)で、なんと1374名もいました。一つの学年の人数が200人以上、一つの学年だけで今の全校生の約2倍もいたわけです。

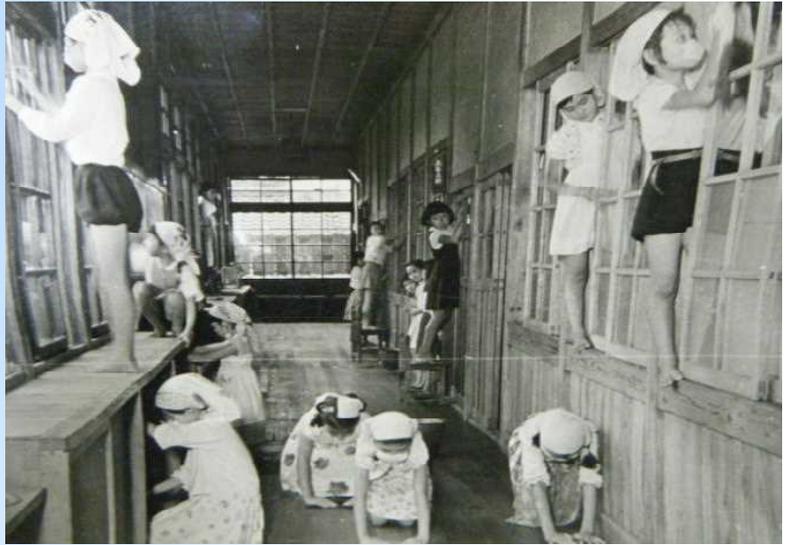
その頃の学校の様子です。「トトロ」の一場面のようなですね。写真は学校生活の一部ですが、皆さんの先輩は、みんな生き生きと勉強し、思いっきり運動し、熱心に働いていたことが伝わってきます。



全校生の移り変わり(大正元年~令和3年度)



この長い歴史の中で、ずっと大切にしてきたこと、それが「校訓」として受け継がれてきた「終始一誠意」です。この校訓は、一小生なら誰もが理解し、守ってほしい伝統です。明治9年、明治天皇が東北地方を回られたときに、本校に宿泊され、教育の様子をご覧になりました。その時、同行した内閣顧問 木戸孝允がしたためた書「終始一誠意」が本校の校訓となりました。意味は、「人がみていようがいまいが、いつでも、どこでも、終生変わることなく、誠意をもって生き抜く」ということです。「誠意をもって生き抜く」とは、やさしさと思いやりのある行動、自分の心に聞いて恥ずかしくない行動をすること、つまり「相手を思いやり何事も一生懸命行おう」とことです。



本校は、誕生から149年間、そして、いよいよ次は150周年です。今まで引き継ぎ、つないできた「終始一誠意」の伝統をしっかりと守り、さらに発展させて行くのは皆さん、そう私たちです。その使命と誇りを胸に、これからも励んでいきましょう。そして、福島一小の学校生活を通して、生きていく上でとても大切な「誠意をもって生き抜く力」を身につけていきましょう。皆さんのさらなる成長を期待しています。



明治・大正・昭和9年まで



昭和9年改築校舎



昭和48年100周年時の校舎

校舎の移り変わり